

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600139		
法人名	早川医療法人社団 早川内科医院		
事業所名	グループホーム いつは		
所在地	山口県山陽小野田市住吉本町二丁目7番20号		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町受理日	平成29年6月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様だけでなく、その家族様の思いにも寄り添い、『いつは』に大切な親を預けてよかった・・・と、思っていただけのケアを目指しています。入所年月が経過するとともに、認知症状は深くなり、また加齢に伴う体力低下も見られます。利用者様が自分の思いを話せず、また動くことができなくなっても、何を感じ、どのように思っているかを考える事が出来るようにと努めています。 昨年6月より、『ひまわりカフェ』を隣の『龍遊館』で2ヶ月に1回開催しております。『いつは』利用者様、入所者様にも参加していただいております。地域の方との交流の場となっております。お茶を飲みながらのお喋り、また共に懐かしい歌を歌う中で、認知症が特別な病気ではないということを理解していただけたと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の関わりの中で利用者の言葉や表情、気づきなどを介護記録に記録され、利用者を担当している職員が介護記録を基に「暮らし方シート」にまとめられ、職員間で情報を共有されて、利用者の思いや意向の把握に努めておられ、利用者がその人らしく暮らし続けられるように支援に取り組んでおられます。地域の住吉祭りでは、事業所の駐車場を会場として提供され、利用者と職員と一緒にバザーを出店されて祭りを楽しんでおられます。利用者、隣接の龍遊館で開催している毎週1回の「100歳体操」に参加されている他、同館で事業所が2ヶ月に1回開催している「ひまわりカフェ」への参加を、チラシで地域の人に呼びかけられ、利用者はゲームやお茶、フルート演奏や日舞観賞を楽しんでおられるなど、地域の人との交流の場を広げられています。前回の評価結果を受けて目標達成計画を立てられ、月1回の内部研修時に緊急時の応急処置や初期対応の実践力を身につけるための訓練を実施されているなど、評価を活かして改善に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に法人の理念を皆で唱和しています。月1回のミーティング時に理念を取り上げどうすれば実現することができるかを検討しています。H28年6月より『ひまわりカフェ』を隣の龍遊館で開催しています	法人の理念を事業所理念とし、職員は毎朝の申し送り時に唱和している。月1回のミーティング時やカンファレンス時に理念について話し合い、確認して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年5月に開催される『住吉まつり』に『いっは』の駐車所を開放して参加しています。隣の龍遊館で『ひまわりカフェ』を開催しています	自治会に加入し、総会に管理者が出席している。年1回の清掃活動に利用者と職員が一緒に参加している。地域の住吉祭りでは、事業所の駐車場を会場として提供し、利用者と一緒にバザーを出店している。利用者は、隣接の龍遊館で開催している「100歳体操」に参加し、地域の人と交流している他、龍遊館で事業所が2カ月に1回「ひまわりカフェ」を開催し、お茶を飲んだり歌を歌ったり、フルート演奏や日舞の鑑賞をして、地域の人と交流している。事業所に2カ月に1回ボランティア(フラダンス、ハーモニカ演奏など)の来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいている自治会長や民生委員、福祉委員を通じて、地域の方への認知症への理解と支援をお願いしています。また『ひまわりカフェ』開催時に認知症の方と実際にふれあっていただいています。現在ボランティアの受け入れを検討中		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	『山口県地域密着型サービス評価項目ガイド集』を全職員に回覧し、読み込んでもらいました。外部評価後には改善点を報告し、改善に取り組んでいます	管理者は、評価の意義について職員に説明し、自己評価項目を職員に分担している。職員はガイド集を回覧して読み、自己評価をするための書類の担当した項目に書き入れた後、管理者がまとめている。全職員で検討することではなく、職員は項目を共有し認識をするまでには至っていない。前回の評価結果を受けて、利用者の思いや意向を把握し、共有する工夫や緊急時の応急手当や初期対応の実践力を身につけるための訓練の機会を増やすなど、改善に向けて取り組んでいる。	・全職員による自己評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の利用状況、利用者様のご様子を報告しています。今年は市よりの実地指導があり、結果を報告しました。外部評価で出された課題も報告し、改善策を話し合っています	会議は年6回開催し、利用者の状況、活動内容、防災について、避難訓練、外部評価結果、「ひまわりカフェ」などについて報告し、話し合っている。災害時における地域との協力体制について話し合い、事業所の緊急時の連絡網に運営推進会議メンバーの自治会長、民生委員、福祉委員の加入の承諾を得ているなど、意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より密に連絡・相談を行い、助言、指導をいただいています。運営推進会議への参加、また H28年6月より開催した『ひまわりカフェ』も市と協力して行なっています	市担当者とは、運営推進会議の他、管理者が電話や直接出向いたり、市主催の認知症研修会に参加した時に、相談したり情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、認知症カフェ（ひまわりカフェ）の開催などで相談したり協力を得ているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に研修を行っています。現在、すべてのドアは施錠せず、解放しています。外出したい利用者様には職員が共に外出しています	内部研修を実施し、職員は抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、外出をしたい利用者とは一緒に外出したり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、管理者が気づいた場合には指導している。職員間でも話し合いをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞やテレビの報道等で虐待のニュースがあった際には、その都度全職員で、防ぐことは出来なかったのか、なぜ起こったのかを考えています。また夜勤は1人で長時間の業務を行なうということで、負担とならないよう、改善を常に考えてます		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の利用者様が『成年後見制度』を利用されています。職員全員で制度の必要性を理解しています		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様が十分に納得、理解されたことを確認してより契約を締結しています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情に対する『窓口』を設置しています。運営推進会議に参加していただいた家族様や、面会に来られた家族様に「意見、苦情等はありませんか」と常に聞いてます	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて、家族に説明している。面会時、運営推進会議時、請求書や事業所だより(2カ月に1度)送付時などに家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに関する要望については、その都度、対応している。運営に反映するまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は管理者、施設長、理事へ報告しています。必要であれば1回／2ヶ月開かれる主任・管理者会議で職員の意見・要望を話し合い、活かしていく事が出来るよう努めています	管理者は、月1回のミーティング時や朝の申し送り時に意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも職員に声をかけて意見を聞くように努めている。2カ月に1回、開催している「主任、管理者会議」に管理者が出席し、意見や提案等について報告し、話し合っている。職員の家庭の状況に応じた勤務体制や勤務時間の変更などの意見を反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、職員自らの年間努力目標を所定の用紙に記入してもらい、毎月の達成状況を記入してもらう。管理者、施設長がその達成状況を確認・把握し、労働環境の改善に努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験年数や力量に応じた法人内外の研修を行なってます。また様々な研修案内を回覧し参加を呼び掛けています。新入職員には日程を決め、この業務を行うに当たり、必要な研修を受けてもらってます	外部研修は、職員に情報を伝え、段階に応じ勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は、実践者研修、新任職員研修、中堅職員研修に4人の職員が参加している。受講後は復命報告書を回覧し共有している。内部研修は、年間計画を作成し、月1回のミーティング時にプライバシー保護、接遇、身体拘束、ターミナルケア、転倒、骨折、高熱、誤嚥の対応、異食などの実践訓練を織り込んで実施している。新人職員は、法人研修受講後、2カ月間先輩職員の指導を受け、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡協議会に参加しています。役員を引き受け、会議や研修会を通して他の施設職員との情報交換を行い、自らの施設のサービスの向上に役立てています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前には、本人様と可能な限り面談を重ね、日々の生活の様子や要望、困っていることはないか？を聞き取り、安心して生活していただくことができますよう努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前には、家族様と何度も面談を重ね、不安と感じている点、悩んでいること、困っていることを聞き取り、理解、納得していただき、安心してご利用していただくことができますよう努めています		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の思いや困っていることをしっかりと聞き取り、必要に応じて他の施設や事業所の説明を行う。本人様、家族様に自ら選択していただくことができますよう努めています		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行っていただきます。人生の先輩として生活の知恵や助言をいただくこともあります		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に変化や、家族様と共有しておきたい事柄が発生した時にはすぐに連絡、報告させていただいてます。相談や助言をいただきながら共に本人様を支えさせていただいてます		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊には時間制限なく自由に行っていただいています。ただ入所されてよりの経過年数にともない、認知が深くなり家族様の顔が分からない、歩行できない事による外出困難が見られるようになってきてます。家族様と相談しながら支援しています	家族の面会や親戚の人、知人、職場の同僚の来訪がある他、電話や年賀状の支援をしている。馴染みの店での買い物や自宅周辺のドライブの他、家族の協力を得て外出、外食、外泊、墓参り、寺参り、買物、馴染みの美容院の利用、親類宅への訪問、葬儀や法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を共にしたり、利用者様同士でお話しできるようなテーブル配置、ソファの配置を工夫している。また利用者様一人ひとりをよく理解し、職員が間に入ることによってより良い関係、関わり合いが出来るよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談にのらせていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様担当者が主となり、コミュニケーションの時間を設け、その中で本人様の思いを聞きとることができるよう心掛けています。利用者様の立場に立ち、今何を求めているのかを考える事が出来るよう努めている	入居時の、基本情報シート(生活歴、職歴、趣味、食事の好みなど)を活用している他、日々の関わりの中で職員は利用者のできることや言動、気づきなどを介護記録に記録し、利用者を担当している職員が暮らし方シートにまとめ、職員間で検討して、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や本人様より生活歴を聞き取る。ケアマネからの情報提供書や診療情報提供書等から情報をくみ取り、把握に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表で心身状態を確認。食事の食べ方、量。表情、行動。排泄の有無等から本人様の現状の把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者様の現状の把握に努め、また家族様の思いも取り入れた介護計画書を作成しています。また定期的にカンファレンスを開き、現状に即した計画書となるよう努めています	施設長や計画作成担当者、利用者を担当している職員を中心に、月1回のカンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向を聞き、主治医や看護師等の意見を参考にして職員間で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6カ月毎に見直している他、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度、見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録や、職員間での申し送り簿、毎朝のカンファレンスにて職員間で情報を把握・共有しています。上司や関係者からの助言を得ながら介護計画書の見直しを行っている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歩行困難な利用者が自宅へ戻られる際の送迎サービスや、入所前よりの持病による医療機関への受診は、基本ご家族様にお願いしているが、都合がつかない時は職員にて対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院へ行く。自治会からの『敬老会』参加の案内。隣の龍遊館で毎週行われている『100歳体操』への参加。毎年5月に開催される『住吉まつり』への参加やH28年6月より始めた『認知症カフェ』への参加を支援しています		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の希望するかかりつけ医となっています。主治医を主として地域医療とも連携を図り、利用者様の健康管理に努めています。体調不良時には24時間いつでも主治医と連絡を取り速やかに適切な医療を受ける事が出来るよう努めています	本人や家族が希望する以前からのかかりつけ医の受診を家族の協力を得て支援をしている。受診時には、医師に情報を口頭で伝えている。協力医療機関をかかりつけ医としている場合は、月2回の訪問診療がある。家族には受診結果を電話で伝えている。職員間では介護記録や申し送りノートで共有している。緊急時は、かかりつけ医や協力医療機関に連絡し指示に基づいて適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の体調の変化に配慮しています。変化が見られる際には速やかに看護師に報告、相談を行いながら適切な医療へとつなぐことができますよう努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より他の施設や、医療施設の地域連携と情報交換を行なっています。利用者様が入院された際には可能な限り毎日面会に行き、利用者様の状況の把握に努めています。担当看護師からも密に経過情報をもらい、また家族様とも連絡を取り合い、安心して治療に専念し、また早期に退院できるよう努めています		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に『利用者様の重度化及び看取り介護に関する指針』に沿って説明を行いサインをいただいています。医師より「終末期に入った」という診断が出た際には、グループホームで出来る事を家族様に説明し、十分に理解、納得していただいたことを確認してより、医師、看護師、そして家族様と連携をとりながら支援に取り組んでいます	契約時に「重度化及び看取り介護に関する指針」に基づいて事業所のできる対応について本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や看護師、関係者で話し合い、医療機関や他施設への移設や看取り等方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	応急手当や初期対応の訓練はミーティング時に定期的に行っています。またヒヤリハットが出た際や利用者様に体調の変化があった際には、一人ひとりの利用者様の状態を再確認し、同じ事故を繰り返すことのないように努めています。	事例が生じた場合は、その日の職員で話し合い、インシデントレポートや事故報告書に再発防止策を記録し、朝の申し送り時に回覧している。月1回のミーティング時に再検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備え、内部研修で救急救命法、転倒、骨折、脱水、高熱、脱水、誤嚥、異食などの対応訓練を実施しているが、実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・職員の緊急連絡網訓練を定期的に行っています。地域の自治会長や民生委員と協力体制を築くための話し合いを継続して行なっています	年2回、拠点施設合同で昼夜想定の大規模火災時の消火、通報、避難訓練を利用者と一緒に実施している。今年度は運営推進会議のメンバーである自治会長、民生委員、福祉委員、龍遊館長が昼夜想定の大規模火災訓練に参加し、利用者の見守りを地域住民の役割としている。事業所の緊急連絡網に自治会長、民生委員、福祉委員の加入承諾を得ている。地域の避難訓練に管理者が参加しているなど、地域との協力体制の構築に向けて取り組んでいる。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言動を否定することなく丁寧な声掛けを行っています。一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。居室へ入室する際には必ずノックをしています	内部研修で接遇について学び、職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる対応があれば管理者が指導している。職員は個人情報の取り扱いや守秘義務について理解し遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症状が進み、意思の疎通が難しい方が多くなりましたが、本人様の生活歴を探り、本人様の思いや希望をかなえて差し上げる事が出来ますよう努めています		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重し、利用者様のペースに合わせた支援が出来るよう努めています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選んでいただき、汚れた衣類は速やかに更衣していただいています。定期的に美容院に来てもらい、利用者様に似合った髪型にカットしていただいています		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食は利用者様の好みに合わせ、パンやおにぎりなどを用意しています。利用者様が食べやすいよう一口大にする、刻む、ミキサー食にする等食事の形態を工夫しています。利用者様にも食事の盛り付けやお盆拭き等出来る事をしていただいています。	三食とも配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。利用者の状態に応じて形状の工夫をしている。利用者は、台拭き、ランチョマット拭き、トレー拭き、盛り付けなど、できることを職員と一緒にしている。月1回の誕生日会、月1回のおやつづくり(桜餅、ぜんざいなど)、季節の行事食(おせち、クリスマス会等)、事業所としての個別の夕食の他、家族の協力を得ての夕食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回チェックし記録に残しています。体調の変化や、季節、睡眠状態、排泄の有無、食習慣等を考えながら、きめ細かい対応をさせていただいています。利用者様の状態によっては医師や看護師、または栄養士と相談しながら対応しています		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っています。義歯の方は夕食後に預かりボリデント消毒をしています。寝たきりの方の口腔内も毎回確認し誤嚥性肺炎にならないよう注意しています。歯科医師の往診もあり、助言を得ながら口腔ケアに取り組んでいます		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	常に紙オムツを外す事が出来ないかを検討しています。排泄チェック表にて各利用者様の排泄のリズムを把握し、トイレで失敗なく排泄することができるよう支援しています。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりのパターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無をチェック表にて確認しています。1日の水分量や食事量、又日中の活動量を確認しながら、なるべく自然排便できるよう支援しています。腹部のマッサージや温める等もおこなっています		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日行っています。利用者様に声掛け行い、納得されてより入っていただいています。入浴剤の使用や季節行事の『ゆず湯』なども行っています。体調不良等で入浴できない方には全身清拭や部分清拭を行なっています	入浴は毎日、10時から12時の間可能で、利用者の希望やタイミングに合わせてゆっくりと入浴できるように支援している。好みに合わせて入浴剤を使用したり、季節には柚子湯やバラ湯にして入浴気分を変えている。利用者の体調に応じてシャワー浴や足浴、部分浴、清拭などで対応している。入浴したくない人には、時間の変更や職員の交代、曜日の変更、声かけの工夫をして入浴支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の意思にて入床していただいています。眠れない方にはテレビを観ていただく。暖かい飲み物を飲んでいただく等していただき眠くなられてより入床していただいています。ぐっすりといっはでいただくことができますよう室内の温度調整や灯りの調整もしております		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の既往症、処方されている薬は全職員で把握しています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の企画行事で、季節の行事を楽しんでいただいています。天気の良い日は散歩や買い物に行き、室内ではレクリエーションを楽しんでいただいています。担当者と共に食事へも出かけています	テレビ視聴、新聞を読む、歌を歌う、ラジオ体操、口腔体操、リハビリ体操、100歳体操、365歩マーチ体操、きよしのズンドコ節体操、炭坑節、運動会、綱引きゲーム、風船バレー、玉入れ、バランスゲーム、しりとり、カルタ、リースづくり、貼り絵、ちぎり絵、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、盛り付け、トレー拭き、台拭き、おやつづくり、フロアや居間の掃除、ボランティア(大正琴、ハーモニカ演奏、フラダンスなど)との交流など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子移動の方、ほとんど寝たきりという方が増えていますが、家族様の協力を得て、外食や、自宅へ帰る等行っています。	外気浴、散歩、四季の花見(バラ、紅葉、桜)、住吉神社、法人の夏祭り、個人外食、自宅周辺のドライブ、買物、龍游館(100歳体操、ひまわりカフェなど)に出かけている他、家族の協力を得て買物、美容院の利用、親類宅の訪問、外食、外泊、墓参り、寺参りなど戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は施設にてお預かりしていますが、家族様と外出、または職員と外出の際にはお渡ししています。苑に戻られてより残金を確認しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が望まればいつでも自由に電話を利用していただいています。正月には本人様より家族に当てた年賀状を書いてもらっています		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファは利用者様の様子を見ながら常に配置換えを行なっています。季節ごとの壁面工作や、花を飾る。またクッションやぬいぐるみ等の使用で暖かい空間づくりに努めています。室内の設定温度は細かく調整し換気にも努めています。冬は大窓から降り注ぐ日差しで、利用者様は日光浴を楽しまれています。	道路に面した窓からの陽ざしでリビングは明るく、遠くに見える山々、近くの住宅地の花壇に咲いている花が見渡せ、季節ごとの壁面作品などで季節を感じることができる。食卓は一人ひとりが座りやすいように配置しており、畳のコーナーや大きいソファを配置し、室内の温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様間の様子をみながらテーブルやソファを移動させ、落ち着いて過ごしていただくことができますよう配慮しています		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際や入居されてからも、家族様と相談しながら、本人様が居心地良く落ち着いて過ごしていただくことができますよう、馴染みのもの、または好まれる物の持ち込みをお願いしております	箆笥、小箆笥、椅子、時計、クッション、テレビ、造花、ゴミ箱などの使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、孫の写真、誕生日の色紙、表彰状、地元の新聞、カレンダーなど飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内用物干しを利用して利用者様に洗濯物を干していただく。ほうきとちりとりで掃除をしていただく等、安全に配慮しつつ、出来る事は行ってもらっています		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームいつは

作成日：平成 29 年 6 月 2 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	全職員による自己評価の取り組み	評価項目を参考とし、管理者・全職員が自分たちのサービスの行き届かない点に気づき、改善していく事が出来る。	H28年度の自己評価及び外部評価結果を全職員に配布し、56項目すべての項目に対し自らの意見を書き出してもらう。書きだしてもらったすべての意見をまとめ、『評価項目ガイド集』とともに再度全職員に認識してもらう。	2年
2	35	全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	全職員が緊急時の応急手当や初期対応を、慌てずに落ち着いて出来るようになる。	現在の利用者様の状態をみながら、予測できる急変にどのように対応すればよいか、毎朝のカンファレンスの時間に話し合う。また月1回のミーティング時には、利用者様に起こりやすい急変に対しての対応法を皆で勉強する。	2年
3	36	地域との協力体制の構築	地域の中で、地域の方の協力を得て、利用者様が安心して落ち着いて生活することができるよう努める。また、災害がおこった際には、速やかに利用者様や地域住民の方、共に安全に避難することができるよう協力体制を築いてゆく。	運営推進会議を利用し、自治会長、龍遊館館長、市の職員、民生委員、福祉委員等とともに協議する。時には消防職員、警察職員、また地域の方々にも会議に参加して頂き、『いつは』『地域の皆様』が共に安心、安全に生活することができるよう協議する。	2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。